

## はじめての文化昆虫学 - みんなで文化昆虫学の研究をしよう！ Primer of cultural entomology – Let's study cultural entomology!

高田 兼太<sup>1)</sup>

**Abstract:** Cultural entomology examine influence of insect on human society and culture, and thus research subject of cultural entomology is not insects, but human, the society and culture, although rich knowledge of general entomology as natural science are needed to study cultural entomology.

昆虫は、世界のいたるところで普遍的に観察される生き物であり、人類の文化に少なからず影響している。それゆえに、人間の色々な文化事象に昆虫は度々姿を現す。たとえば、私達の生活をざっと見渡しても、生活用品にはテントウムシグッズがたくさんあるし、装飾品にはチョウをモチーフにしたものが数多くみられる。そして昆虫は、映画にも、漫画にも、文学にも、ゲームにも頻繁に登場する(例えば、Berenbaum; 1995; 小西, 2007; Meyer-Rochow *et al.*, 2008; Klein, 2012; 高田, 2010, 2013a; 保科, 2013)。

ところで、みなさんは「文化昆虫学」という学問をご存じだろうか? 1980年ごろに登場したかなり新しい学問分野なのであるが、文化昆虫学と聞いて正直とまどいを覚え、ぴんとこない人も多いことだろう。文化昆虫学はまさしく、上述したような昆虫が表象する色々な文化事象を対象に研究する学問で、人間社会や文化に対する昆虫の影響について調べることを目的とする(Hogue, 1980; Hogue, 1987; 三橋, 2000; 小西, 2003; 小西, 2007; 高田, 2010, 2013a; 保科, 2013)。たとえば、これまでに発売されたロック音楽CDジャケットの中で、どのような種類の昆虫が、どのくらいの頻度で出現し、またどのような表現方法で人々にどのようなイメージを与えているのかを研究するのである。ちなみに、ここに挙げた研究事例は、実際に存在するものである(Coelho, 2004)。

多くの人々によく勘違いされているように思われるのは、「文化昆虫学」と言う言葉の中の「昆虫学」と言う言葉に騙されるからなのか、文化昆虫学の研究対象は「昆虫」だと思われていることである。しかしながら、実際には、文化昆虫学の研究対象は「昆虫」ではなく、「人類とその社会、そして文化」である。簡潔に述べると、学問を自然科学(≒理系的な学問)と人文科学(≒文系的な学問)とに二分したときには、文化昆虫学は人文科

学に相当するのである。ただし、文化昆虫学は人文科学に属する学問といえども、昆虫と人とのかわりについて調べる以上、自然科学に属する一般昆虫学の知識も必要とし、また極めて学際的な学問(学問や研究が、複数の異なる領野にまたがっていること)である。それゆえに、文化昆虫学が何を主体に調べる学問なのかわからなくなってしまうのも当然なのかもしれない。

また、昆虫がかかわる文化と聞くと、食文化における生活手段としての昆虫食文化を想像される方が多いのではないだろうか? 実際には、生活手段としての昆虫食に関する研究事例は非常に多いと思われる。しかしながら、まず生活手段にかかわる昆虫食文化は、文化昆虫学の創設者 Hogue(1980, 1987) が提唱した狭義(本来)の文化昆虫学では主要な研究テーマではないことをここに述べておきたい。というのも狭義の文化昆虫学では、人間社会や文化事象の中でも特に知的営為にかかわるものを主な対象とし、生活手段にかかわる昆虫食文化の研究は原則として狭義の文化昆虫学の範囲に含まないのである。ただし、最近では、知的営為だけでなく生活手段にかかわる昆虫利用を含めた方がより柔軟に文化と言うものをとらえることができることから、生活手段にかかわる昆虫利用(昆虫食を含む)の研究もまた文化昆虫学に含まれるという考え方もあり(例えば、三橋 2000, 野中 2005)、筆者もその考えを支持している。さて前置きが長くなってしまったが、生活手段にかかわる昆虫食文化が文化昆虫学の領域に含まれるとして、まずは考えてほしい。食文化がいかに人類の生活において大きなウェイトを占めるのかが明白であっても、食文化は幅広い文化の中のひとつのジャンルにすぎないのである。また、狭義の文化昆虫学が対象とする知的営為にかかわるものだけでも、文化に含まれる事象はきわめて幅広い。多くの場合では、文化とは狭義の教養的文化をさすことが多いが、実際には大衆的文化や趣味的文化も存在する。

<sup>1)</sup> Kenta TAKADA 大阪市西淀川区

簡単にジャンルを並べても、文学、言語、音楽、神話、歴史、映画、漫画、アニメ、ゲーム等があげられるのである。また、食文化をとってみても、昆虫がかかわる食文化は昆虫食だけでなく、食品そのものや食品パッケージのデザインとして昆虫が利用されることもある(たとえば、前者の例としてはTakada(2013)、後者の例としては高田(投稿中)がある)。このように文化昆虫学は、極めて広大な文化事象を扱う学問分野なのである。

実際に文化昆虫学の研究を行うにあたっては、基本的には人間社会や文化事象に対する昆虫の影響(昆虫の役割やインパクトなど)に関する問題であれば、比較的自由的な発想でテーマを決めることができる。先の例では、Coelho(2004)のロック音楽のCDジャケットの研究をあげたが、たとえば宮ノ下(2006)のように特定の漫画作品(ハートカクテル)における昆虫の役割について論じてもよいし、高田(2013b)のようにある地域の昆虫(ハサミムシ)の方言について論考しても、保科(2013)の11章のようにカブクワという呼び方についてカブトムシの方がクワガタムシより先に呼ばれる理由についてつきつめて考えるのもよいのである。実際に研究をする際には、まずは特定の文化事象に対して、①どんな昆虫が、②(複数種が表象する場合は)それぞれの種がどれくらいの頻度で、③どのような形態の変化(デフォルメ)がほどこされて、④どんな役割やイメージをもって表象しているのかを意識して調べればよいだろう。あるいは、⑤どんな文化事象に昆虫が表象していたかを記録するだけでも、場合によっては(発見自体に新規性があるか等)かまわないと思われる。

本報告文では、新興学問である文化昆虫学が世の中に広まってほしいという想いをこめて、私なりの文化昆虫学の紹介をさせていただいた。拙著報告文を読んで、少しでも文化昆虫学について理解していただき、あるいは興味をもていただければ幸いである。文化昆虫学は、まさに昆虫学と人類学との接点であり、人間が自然と共存する上で必要な自然観について考える上で重要である。

## 文 献

Berenbaum, M. R., 1995. *Bugs in the Systems*. 222 pp. Addison-Wesley Publishing Company, USA.

Coelho, J. R., 2004. Insects in Rock and Roll cover art. *American Entomologist*, 50(3): 142-151.

Hogue, C. L., 1980. Commentaries in cultural entomology. 1. Definition of cultural entomology. *Entomological news*, 91(2): 33-36.

Hogue, C. L., 1987. Cultural entomology. *Annual Review of Entomology*, 2: 181-199.

保科英人, 2013. アキバ系文化昆虫学～2次元世界の美少女の虫たちへの想い. 426 pp. 牧歌舎. 兵庫.

Klein, B. A., 2012. The curious connection between insects and dreams. *Insects*, 3: 1-17.

小西正泰, 2003. “文化昆虫学序説”. 三橋 淳(編), *昆虫学大事典*. pp. 1103-1104, 朝倉書店, 東京.

小西正泰, 2007. *虫と人と本と*. 519 pp., 創森社, 大阪.

Meyer-Rochow, V. B., K. Nonaka & S. Bouldam, 2008. More feared than revered: Insects and their impact on human societies (with some specific data on the importance of entomophagy in a Laotian setting). *Entomologie heute*, 20: 3-25.

三橋 淳, 2000. 文化昆虫学とは. *遺伝*, 54(2): 14-15.

宮ノ下明大, 2006. 「ハートカクテル」にみる昆虫たち - 四季と昆虫 -. *家屋害虫*, 28: 91-95.

野中健一, 2005. *民族昆虫学: 昆虫食の自然誌*. 202 pp. 東京大学出版会, 東京.

高田兼太, 2010. 文化甲虫学: 甲虫の文化昆虫学概説. *甲虫ニュース* 170: 13-18.

高田兼太, 2013a. 文化昆虫学のススメ. *Nature Study*, 59: 14-15.

高田兼太, 2013b. ハサミムシの不名誉な俗称. *きべりはむし*, 36 (1): 20-22.

高田兼太, (投稿中). 食品パッケージに見られるレアな昆虫の事例: 珉珉食品株式会社の「せみ餃子」.

Takada, K., 2013. Ladybug-shaped Chocolate on a Mousse Cake Bought at a Bakery in Amagasaki City, Japan. *Elytra*, Tokyo, NS, 3:195-198.